

第 373 回史跡めぐり資料・江戸東京たてもの園を見に行く  
H19. 11. 18 (日) NPO 法人 越谷市郷土研究会



滝田ゆう絵葉書より

◎越谷 VS (対) 小金井

○共通点

◎市の木 越谷、小金井ともに「けやき」

○完全に勝った

◎人口

越谷 32万 小金井 11万

◎面積

越谷 60.31平方KM 小金井 11.33平方KM

○完全に負けた

◎市制施行

越谷 昭和33年11月 小金井 昭和33年10月

◎大学数

越谷 文教大・県立大

小金井 東京学芸大・東京農工大・法政大(工学部)

◎小金井公園とは、

面積78ヘクタール、日比谷公園の4.8倍、上野公園の1.4倍。この公園の前身は、昭和15年の紀元2600年記念事業で計画された小金井大緑地。戦後、東宮仮御所に使用され、また農地解放により、4割を失いました。昭和29年に都市公園として開園された。

◎小金井の地名の由来

「黄金に価する豊富な水が出る」ことから黄金井が小金井になった、といわれている。また、中世には、現在の前原町が「金井原」と呼ばれており、あるいは土地の支配者・金井氏にちなむ地名という説もあります。

◎江戸東京たてももの園

平成5年3月28日(日)に開園。その日、越谷市郷土研究会は第199回の史跡めぐりで訪れています。まだ建物がいまより少なかったため、そのあと、国分寺市殿ヶ谷戸庭園、国分寺跡を訪問しましたが、今回はたてももの園内の建物が増えたため、よそを回れなくなりました。

これから復元されるものに、三島邸(新宿区信濃町にあった。ドイツ人建築家・ゲオルグ・デ・ラランデが自邸として設計)、万徳旅館(青梅市に江戸末期に創建された「旅籠」の形式を残す旅館)、土井邸(港区白金台に1928(昭和3)年建てられた「鯉節・海苔」などを扱った商店)があります。

☆常盤台写真場

東武鉄道初の宅地分譲。現在の東武東上線ときわ台駅（当時Ⅱ武蔵常盤駅）の開業を機（1935）とするもの。田園調布と並ぶ郊外住宅地。常盤台写真場は文化住宅が立ち並ぶなかでもひとときモダンな存在であった。昭和12（1937）年建築。

☆前川國男邸

埼玉会館、埼玉県立歴史と民俗の博物館（大宮・県立博物館）、東京文化会館、東京都美術館なども設計した建築家の自宅。昭和17年に竣工。

☆三井八郎右衛門邸

三井財閥、同族十一家の総領家、三井八郎右衛門高公氏の第二次大戦後の邸宅。今井町（現、港区）の邸宅が焼失、昭和27（1952）年に麻布笄町に建設したもの。母屋西側の土蔵は日本橋・越後屋の絹蔵。

☆小出邸

設計者は堀口捨己。屋根は宝形（ほうぎょう）造り。大正14（1925）年建築。

玄関の天井灯はルネ・ラリックのオール・デコの佳品。（題名Ⅱポール型のヤドリギ）

二階のシャンデリアは第一国立銀行に飾られていた。望海床は大磯の別荘・城山荘にあった和室で三井高陽氏の画室でもあった。一階書院の二間は明治36頃完成の油小路三井邸の奥書院の一部。欄間、櫛型窓に注意。

☆田園調布の家（大川邸）

渋沢榮一の「田園都市株式会社」の開発分譲地に建てられた。「居間中心型」は大正後期から昭和初期に浸透。テラスにあるパーゴラに注目。

☆高橋是清邸

赤坂に明治35年にこの家を建て、昭和11（1936）年に2・26事件で暗殺されるまで住んだ。約2千坪、も丹波篠山藩青山家の中屋敷の地。この二階で暗殺された。総梅（つが）普請の和風邸宅。ガラスの表面にゆがみにも注目。

☆旧自証院霊屋

霊屋とは神廟、霊廟ともいい、有力者の霊を慰めるために建てられた。秀吉の正室・北政所の高台寺の霊屋や家康の日光東照宮など。三代将軍家光の側室・お振の方のために娘・千代姫が建てた。

☆天明（てんみょう）家

鎌倉時代に下野から大田区鶉の木に移り住んで、江戸時代には鶉の木村の名主役も勤めた家柄。約3千坪の敷地。長屋門には明和6（1769）年の棟札。書院の前には枯山水の庭園。屋根にあるのが千鳥破風。大名が多摩川へ鮎釣りに来たときの本陣。明治時代には村役場をかねた。

☆西川家別邸

多摩で製糸工場を多く経営した西川伊左衛門が昭島市に建てた。近代和風の粋。

☆伊達家の門

旧宇和島家伊達家が大正時代に白金に建てた。片番所は5万石以上の外様、5〜1万石の大名。紋は竹丸の雀。仙台伊達家とは少し違う。

☆全水庵

宗偏流・山岸宗佳（全水）が新潟県長岡に建てた。その後、吉祥寺へ。劇作家・宇野信夫氏が購入、西荻窪へ移す。

☆小寺醤油店

現・港区白金に建てられた。日本酒が主な商品。昭和30年代後半まで量や重さを量って売る「量り売り」をしていた。出桁（だしげた）造りに注意。袖蔵、妻入り、壁面は黒ダイヤという石の入ったモルタル塗り。

### ☆鍵屋

台東区下谷二丁目の居酒屋。戦後の「酒はカストリ」の時代からメニューは増えて鰻の子のくりから焼きや煮しめ、味噌田楽などが絶品といわれた。昭和30年代には夕方5時から夜2時すぎまで営業。小説家内田百けん、ドイツ文学者高橋義孝なども常連であった。酒は桜正宗、菊正宗、大関。酒屋で強壮剤、そばやで風邪薬を売っていた。安政3（1856）年建築。

### ☆仕立て屋

文京区向丘一丁目。火熨斗。こて。裁ち。運針。明治12（1879）年建築。

### ☆子宝湯

足立区千住元町にあった。入口の唐破風の「七福神の宝船」の彫刻だけでも二階家が建つほどのお金がかかっている。タイル画は九谷・石田庄太郎氏（号・章仙）の作。小さな湯船はくすり湯。一日500人も来た。テレビの設置。板の間かせぎ。デバ亀。

昭和4（1929）年建築。

◎「入母屋」と「唐破風」を覚えておきましょう。

### ☆武居三省堂

神田須田町一丁目。看板建築。筆、墨、硯など文具卸。「吾日三省吾身」から。マンサード屋根。地下室あり。「ととろ」の宮崎はやお氏が最も気に入っている建物。昭和2（1927）年建築。

☆花市生花店

神田淡路町。昭和2（1927）年建築。

☆丸二商店

神田神保町三丁目。荒物屋。昭和初期。  
うらに長屋の復元あり。

☆植村邸

中央区新富町。貴金属店。銅板に空襲被害の跡あり。  
昭和2（1927）年建築。

☆村上精華堂

台東区池之端二丁目。化粧品店。製造・卸・小売。  
イオニア式の列柱。昭和3（1928）年建築。

☆川野商店

江戸川区南小岩八丁目。和傘製造問屋。大正15年建築。

参考書

江戸東京たてもの園解説本 東京都歴史文化財団編

・刊 03・3

たてもの野外博物館探見 広岡祐著 JTBキャン

ボックス JTB刊 00・10



滝田ゆう絵葉書より



緑の中に再現される江戸東京の建物

# 江戸東京博物館分館 野外博物館

緑豊かな都立小金井公園内に誕生するユニークな野外博物館(江戸東京博物館分館)。ここでは約7ヘクタールの広さに、江戸東京の文化的・歴史的な建物、武家屋敷、町家、商家、農家などが再現されます。東京の自然に触れながら、古い貴重な建物を見学できます。

# 野外博物館

### ●高橋堤清邸

財界の政治家として著名な高橋堤清の自宅の一部です。写真は生前の遺品の様子を書したもので、2・16事件(昭和11年)の現場にもなりました。  
(旧所在地：港区赤坂)

### ●吉野家(農家)

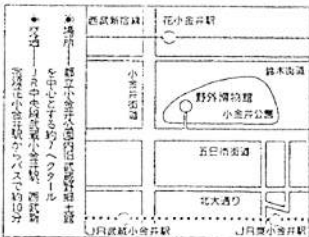
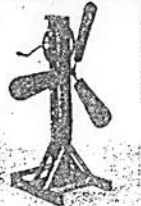
江戸後編

### ●八王子(山手)の陣羽織

### ●吉野家

江戸時代に名立も勤めた旧家で、土間では季節に応じた道具を展示します。収穫の後、写真の写影は鳥居風城を意図している。姿合がって子供がたくさん寄って来たそうです。  
(旧所在地：三鷹市野崎)

模倣は鳥居風城



### ●武蔵三省堂

漢、書、硯を中心に扱う文具店。創業は明治時代に遡ります。筆を納めた桐箱が壁の隅にずらりと並んだ店内は、建築当初の風影を残しています。  
(旧所在地：千代田区神田須田町)



### ●子宝湯

東家の特約的な温泉です。ロッカーのない時代、脱衣場では先づの曲った棒で替りに脱衣箱を引っ掛けながら片付ける人の姿がありました。  
(旧所在地：足立区千住)



### ●ビジターセンター(旧光華殿)

昭和15年の「紀元2600年の武蔵」に使われた建事です。ここが野外博物館の入り口になります。中では東家の歴史を、建屋物や都市計画を通してわかりやすく紹介しています。また図書館や喫茶によるさらに詳しい情報も用意しています。  
(旧所在地：千代田区豊原外苑)



江原 渡辺 保忠

江戸東京博物館 館長

## 江戸東京の多彩な文化を収蔵する

江戸から東京に至る貴重な建物は、関東大震災や戦災などの多くを消失してしまし、残った建屋、世界一高い木造塔屋敷は、文化財的な価値を認められ、保護されてきた。その一方で、一帯の歴史を伝えるのに、歴史文化を伝える重要な役割を果たしている。

例えば、フランス・ロンド、ライオン、ドイツの帝国ホテルは明治初期に取り入れられ、その後の関東大震災の大火で焼失し、戦後復興された。これらは、文化財として保護されている。江戸東京博物館の建屋物を保護するにあたっては、江戸東京の文化を伝える重要な役割を果たしている。

江戸東京博物館の建屋物を保護するにあたっては、江戸東京の文化を伝える重要な役割を果たしている。江戸東京博物館の建屋物を保護するにあたっては、江戸東京の文化を伝える重要な役割を果たしている。

江戸東京博物館の建屋物を保護するにあたっては、江戸東京の文化を伝える重要な役割を果たしている。江戸東京博物館の建屋物を保護するにあたっては、江戸東京の文化を伝える重要な役割を果たしている。

14年前、開設当時の江戸東京たてもの園

